

人口經濟論

大淵 寬  
岡田 実  
加藤 寿延  
森岡 仁

# 人口經濟論

大淵 寛・岡田 実  
加藤寿延・森岡 仁

新 評 論

## 著者紹介 (あいうえお順)

おおぶち ひろし  
大淵 寛 (序章、第Ⅱ部)

1936年生。1964年：中央大学大学院経済学研究科博士課程修了。現在：中央大学経済学部教授。経済学博士。専攻：人口経済論。著書：『人口過程の経済分析』新評論，1974。『人口論史』共著，勁草書房，1960。他。

おかだ みのる  
岡田 実 (第Ⅰ部)

1929年生。1959年：中央大学大学院経済学研究科博士課程修了。現在：中央大学経済学部教授。専攻：人口論，人口思想史。著書：『現代人口論』共著，千倉書房，1975。『世界の人口政策と国際社会』共著，千倉書房，1976。他。

かとうとしのぶ  
加藤寿延 (第Ⅳ部)

1933年生。1963年：中央大学大学院経済学研究科博士課程修了。現在：亜細亜大学経済学部教授。専攻：人口政策。著書：『アジアの人口と労働力』日本YMCA同盟出版部，1970。『アジアの労働市場』共著，アジア経済研究所，1973。他。

もりおか じん  
森岡 仁 (第Ⅲ部)

1942年生。1966年：中央大学大学院経済学研究科修士課程修了。現在：駒沢大学経済学部助教授。専攻：人口論，経済政策。著書：『現代経済政策』共著，千倉書房，1975。『世界の人口政策と国際社会』共著，千倉書房，1976。

## 人口経済論

(検印廃止)

1977年6月10日 初版第1刷発行

1979年1月10日 初版第3刷発行

著者 大淵 寛・岡田実  
加藤寿延・森岡仁

発行者 二 瓶 一 郎

発行所 株式 新 評 論  
会 社

〒160 東京都新宿区西早稲田 3-16-28 電話東京(202) 7391番  
振替東京 6-113487番

定価はケースに表示します 印刷 白 蘭 舎 (137)  
落丁・乱丁はお取替えします 製 本 清 水 製 本 所

© 1977 大淵・岡田・加藤・森岡 3033-330113-3177  
Printed in Japan

## は し が き

今日ほど人口問題に対する関心が世界的に高められた時はない。その理由の一部は第二次大戦後、人口統計上の知識が改善されて世界の人口情報が正しくかつ迅速に知られるようになったこと、世界的連帯意識が急速に進んできたことなどに求められるであろう。しかしなんと言っても、世界の人口が現実には歴史上未曾有の増加率を示していることに最大の理由がある。

19世紀中世界の人口増加率は、年平均で約0.5%、20世紀前半で0.8%にすぎなかったものが、1950年頃からほとんど2%の率で増大を続けている。日本も例外ではない。率の上では戦前とあまり変りないが、量の上では、終戦後の約7,000万から近年の1億1,000万をこえた。つまり4,000万もの増大をなしとげたのである。しかも現在の出生率、死亡率を前提として、今世紀末には1億3,000万をこえるという。

同胞の増大は、ちょうど自身の家族のふえるように喜ばしいことであろう。人口が減退し民族が死滅に向かっているというような情況は、国も社会も個人も望むところでない。しかし問題はこのように増大した人口を38万平方キロという狭い国土の中でどうして養っていくかということである。人口問題の中心は、人口と経済間のバランスの問題であるから、たとえ人口がふえても、経済の発展がそれ以上に弊害なく行なわれるとしたら、少しも恐れることはない。日本では戦後、多産多死から少産少死への人口転換をなしとげ、また他方では技術革新に基づく高度経済成長を通じて、伝統的過剰人口を解決し、国民1人ひとりの生活水準を格段に改善した。長い間日本人口の特徴であった過剰人口問題は一転して、過少人口のそれへ変ったかの様相さえ示した。しかし現実はそのような安易なものでなかった。近年、資源、食糧、環境悪化、物価騰貴などが重大な経済、社会問題として、かつて経験したことのないほどの注目をひいているが、これらの問題のどれ1つをとってみても、1億1,000万の人口の重みと密接な関連をもって現われている。

このような状況を反映して人口問題の文献が国の内外に陸続として現われて

も当然である。われわれの大学の研究室にも、とうてい読みきれないほどの人口関係の研究書が書店から次々と持ちこまれている。しかし不思議なことに日本では、食糧問題、資源問題、雇用問題など、それぞれ個別の問題に深く立入った専門書は多いが、これらの問題を人口を基軸として、人口問題一般という形でとりあげた書物はきわめて稀れである。われわれの著作はこの意味で、人口問題の体系的理解と正しい解決のために、読者に多少なりとも役立てば幸いである。内容はできるだけ平易に読みやすく、しかも十分学界の水準に耐えることを目ざした。

この書物の題名を『人口経済論』とした。『人口論』とすべきかどうか意見のわかれるところであったが、結局、人口問題の最重要のものは人口と経済間の相互関係であること、また全体の内容から考えて、人口と社会あるいは社会政策に関連することは、必要に応じ重要なもののみとりあげたことなどの理由から上記表題を採用した。

本書の執筆者たちは、かつて中央大学の南亮三郎博士の研究室で人口論の手ほどきを受け、今日に至っても「人口学研究会」の場で適切な指導を頂いているが、現在それぞれの個有の研究領域で、日本の学界だけでなく国際的にも積極的に活躍している。今日このような形で本書を出版する運びとなったのはもとより南博士の適切なご指導ご薫陶に負うことはいうまでもないが、人口論を専攻する門下生の一致した協力のうるわしい成果である。われわれはまず恩師にこの一著を捧げ、長年のご厚恩に深い感謝の意を表したい。

最後に、本書の刊行に当って種々面倒な原稿の整理や校正の労を取って下さった新評論編集部部の藤田智隆氏に心からお礼を申しのべておきたい。

1977年5月12日

執筆者一同

# 目 次

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| はしがき                                         | 1  |
| 序 章 人口経済論とは何か                                | 11 |
| 第1節 人口と人口問題                                  | 11 |
| a. 世界人口の成長(11)  b. 人口の概念と特質(12)  c. 人口問題(13) |    |
| 第2節 人口学の体系と構成                                | 14 |
| a. 学際科学としての人口学(14)  b. 人口の歴史・理論・政策(16)       |    |
| 第3節 人口経済論の方法と課題                              | 16 |
| a. 人口経済論の発展(17)  b. 人口経済論の現代的課題(18)          |    |
| 第Ⅰ部 人口の歴史と学説                                 |    |
| 第1章 人口思想と人口様式                                | 22 |
| 第1節 人口思想史の方法                                 | 22 |
| 第2節 人口の波と人口様式                                | 25 |
| 第3節 人口様式の発展とその社会・経済的要因                       | 27 |
| 第2章 マルサスの人口思想                                | 37 |
| 第1節 黎明期の人口思想                                 | 37 |
| 第2節 マルサスの人口原理                                | 41 |
| 第3節 マルサスの人口政策思想                              | 47 |
| 第4節 マルサス人口論と人口史的背景                           | 50 |
| 第3章 マルクスの人口思想                                | 53 |
| 第1節 初期社会主義者の人口思想                             | 53 |
| 第2節 マルクスの人口思想                                | 57 |
| 第3節 マルクス人口思想の発展                              | 60 |
| 第4節 マルクス人口思想の特徴と意義                           | 63 |
| 第4章 出産減退期の人口思想                               | 67 |
| 第1節 人口史的背景                                   | 67 |

|     |                |    |
|-----|----------------|----|
| 第2節 | 出産減退期フランスの人口思想 | 69 |
| 第3節 | 出産減退期ドイツの人口思想  | 73 |
| 第4節 | 出産減退期イギリスの人口思想 | 76 |

## 第Ⅱ部 人口理論

|     |                                                                |     |
|-----|----------------------------------------------------------------|-----|
| 第5章 | 人口転換理論                                                         | 84  |
| 第1節 | 人口転換の理論とモデル                                                    | 84  |
|     | a. 人口転換(84) b. 人口転換モデル(84) c. 出産減退理論(85)                       |     |
| 第2節 | 人口転換理論批判                                                       | 86  |
|     | a. 誤まった予測(86) b. 方法論的批判(87) c. 統計的反証(87) d. 歴史人口の問題(88)        |     |
| 第3節 | 人口転換の波及                                                        | 89  |
|     | a. 局面経過加速の法則(89) b. 西欧文化圏への波及(90) c. 日本の経験(90)                 |     |
| 第4節 | 人口転換の新局面                                                       | 92  |
|     | a. 中国文化圏への波及(92) b. 波及の限界(93) c. 中国の出生力動向(94) d. 中国文化圏をこえて(95) |     |
| 第6章 | 出生力の経済理論                                                       | 99  |
| 第1節 | 出生力分析の経済的枠組                                                    | 99  |
|     | a. ミクロ経済理論の応用(99) b. 子供の効用と費用(100)                             |     |
| 第2節 | 間接的効用源泉としての子供                                                  | 101 |
|     | a. 結婚年齢と生活水準(101) b. 生産財としての子供(103)                            |     |
| 第3節 | 消費財としての子供                                                      | 105 |
|     | a. 子供と他財との間の選択(105) b. 子供の量と質との間の選択(107)                       |     |
| 第4節 | 家計の時間配分と出生力                                                    | 109 |
|     | a. 家計の生産と時間配分(104) b. 出生力決定のモデル(112) c. 家政学的接近の貢献(115)         |     |
| 第7章 | 人口効果の理論                                                        | 118 |
| 第1節 | 経済成長における人口                                                     | 118 |
|     | a. 1人当り所得の意味(118) b. 人口効果(118)                                 |     |
| 第2節 | 人口増加と資本形成                                                      | 120 |
|     | a. 人口投資と経済投資(120) b. 人口増加と資本需要(121) c. 人口増加と                   |     |

|       |                                                                             |     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|-----|
|       | 資本供給(122)                                                                   |     |
| 第 3 節 | 人口変動と労働力                                                                    | 123 |
|       | a. 人口と労働力(123) b. 労働に関する収穫法則(124) c. 労働力の質と人口(126) d. 労働力の流動性と人口成長(126)     |     |
| 第 4 節 | 人口増加と資源制約                                                                   | 127 |
|       | a. 人口・資源・成長(127) b. 人口増加と食糧資源(128) c. 人口増加と自然資源(129)                        |     |
| 第 5 節 | 人口圧迫と技術進歩                                                                   | 130 |
|       | a. 人口増加と農耕文化の伝播(130) b. 人口圧迫と農業発展(131) c. 経済離陸と人口圧迫(132)                    |     |
| 第 8 章 | 適度人口理論                                                                      | 137 |
| 第 1 節 | 適度人口理論の歴史                                                                   | 137 |
|       | a. 適度人口の概念(137) b. 適度人口理論の発展(137) c. 適度人口の基準と諸類型(139)                       |     |
| 第 2 節 | 適度人口の静態理論 I                                                                 | 141 |
|       | a. 極小人口と極大人口(141) b. 経済的適度人口(142) c. 国力のオプティマム(143) d. 種々の適度人口の順序(144)      |     |
| 第 3 節 | 適度人口の静態理論 II                                                                | 145 |
|       | a. 厚生経済学的接近の沿革(145) b. 人口成長と 1 人当り福祉(147) c. 福祉基準による適度人口(148)               |     |
| 第 4 節 | 適度人口の動態理論                                                                   | 150 |
|       | a. 静態的適度から動態的適度へ(150) b. 適度人口成長率—コストを無視した場合(151) c. 適度人口成長率—コストを考慮した場合(152) |     |
| 付 論   | 形式人口学の主要概念                                                                  | 157 |
| I     | 人口増加                                                                        | 157 |
| II    | 死亡率                                                                         | 158 |
| III   | 出生力                                                                         | 163 |
| IV    | 人口構造                                                                        | 165 |
| V     | 人口分布と人口移動                                                                   | 168 |

### 第Ⅲ部 人口問題

|       |            |     |
|-------|------------|-----|
| 第 9 章 | 先進工業国の人口問題 | 172 |
|-------|------------|-----|



|      |                                                                                                              |     |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 第1節  | 産業革命と過剰人口問題                                                                                                  | 172 |
|      | a. 人口問題とは(172) b. 産業革命以前の人口問題(172) c. 産業革命と近代経済成長(174) d. 産業革命と人口爆発(176)                                     |     |
| 第2節  | 人口転換と過少人口問題                                                                                                  | 178 |
|      | a. 人口転換と人口減退(178) b. 経済の長期停滞と過少人口問題(180)                                                                     |     |
| 第3節  | 現代の人口問題                                                                                                      | 181 |
|      | a. 人口高齢化問題(181) b. 人口増加と資源・環境問題(183)                                                                         |     |
| 第10章 | 日本の人口問題                                                                                                      | 187 |
| 第1節  | 江戸・明治期における人口問題                                                                                               | 187 |
|      | a. 江戸時代の農村における人口減退(187) b. 江戸時代の人口と経済の停滞(188) c. 江戸時代の都市における人口流入(189) d. 明治維新と人口増加(190) e. 過剰人口と日清・日露戦争(190) |     |
| 第2節  | 大正・昭和前期における人口問題                                                                                              | 193 |
|      | a. 米騒動と移民排斥問題(193) b. 産児制限運動と過剰人口論争(194) c. 経済恐慌下の人口問題(195) d. 過剰人口と海外進出(197)                                |     |
| 第3節  | 昭和後期の人口問題                                                                                                    | 198 |
|      | a. 戦後の人口増加(198) b. 人口転換(199) c. 高度経済成長下の人口問題(200) d. 静止人口と高齢化問題(201)                                         |     |
| 第11章 | 低開発国の人口問題                                                                                                    | 205 |
| 第1節  | 人口増加の史的趨勢                                                                                                    | 205 |
|      | a. 低開発とは(205) b. 人口の推移(205) c. マルサスのディレンマ(206) d. 人口動態率の推移(207)                                              |     |
| 第2節  | 人口増加と経済発展                                                                                                    | 208 |
|      | a. 阻害要因としての人口増加(208) b. 産業革命と人口増加(210) c. 産業革命のための経済的条件(211) d. 産業革命のための人口的条件(211) e. 人口転換のための条件(212)        |     |
| 第3節  | 高出生力の人口問題                                                                                                    | 213 |
|      | a. 年齢配分と投資に与える影響(213) b. 人口密度の問題(214) c. 失業および不完全就業の問題(215) d. 産業構造の遅れと雇用問題(217)                             |     |
| 第12章 | 社会主義国の人口問題                                                                                                   | 220 |
| 第1節  | 社会主義的人口法則                                                                                                    | 220 |
| 第2節  | ソ連の人口問題                                                                                                      | 221 |

a. 過少労働力問題(221) b. 人口増加と動態率の推移(222) c. 出生率低下の諸要因(224) d. 労働力の産業間移動(226)

### 第3節 東欧諸国の人口問題 ..... 227

a. 人口転換(227) b. 人口変動(229) c. 経済の遅れと人口抑制(230) d. 低出生率の諸要因(231) e. 人口高齢化と労働力不足の問題(233)

### 第4節 中国の人口問題 ..... 235

a. 人口および人口動態率(235) b. ポピュレーションニズム(236) c. 国勢調査と過剰人口問題(236) d. 人口論争(237) e. 大躍進以後の人口問題(240) f. 過剰人口と低生活水準(241)

## 第IV部 人口政策

### 第13章 人口政策の目標と手段 ..... 246

#### 第1節 問題主義的人口政策と機能主義的人口政策 ..... 246

#### 第2節 人口政策の主体と客体 ..... 248

#### 第3節 人口政策の目的と価値前提 ..... 251

#### 第4節 人口政策の目的と手段 ..... 254

#### 第5節 人口政策の範囲と対象 ..... 257

### 第14章 人口政策の歴史 ..... 260

#### 第1節 歴史における人口政策思想 ..... 260

#### 第2節 重商主義の人口政策思想 ..... 263

#### 第3節 マルサスの人口政策思想 ..... 265

#### 第4節 ヨーロッパ諸国の人口政策 ..... 266

a. フランスの人口政策(266) b. スウェーデンの人口政策(269) c. イギリスの人口政策(271)

#### 第5節 日本の人口政策 ..... 273

a. 明治期の人口政策(273) b. 大正・昭和初期の人口政策(275) c. 戦時体制下の人口政策(276) d. 第二次大戦直後の人口政策(277) e. 人口問題審議会と戦後の人口政策(279)

### 第15章 計画経済と人口政策 ..... 282

#### 第1節 「アジアの人口増加」の特徴 ..... 282

#### 第2節 アジアの人口増加と人口政策の推移 ..... 284

|                |                        |     |
|----------------|------------------------|-----|
| 第3節            | インドの家族計画プログラムの推移 ..... | 287 |
| 第4節            | 中国の出生力抑制政策の推移 .....    | 290 |
| 第16章           | 現代の人口政策 .....          | 298 |
| 第1節            | 国連「世界人口会議」の争点と評価 ..... | 298 |
| 第2節            | 人口政策の現代的課題 .....       | 304 |
| 事項索引 (309~313) |                        |     |
| 人名索引 (315~318) |                        |     |

## 人口經濟論



## 序章 人口経済論とは何か

### 第1節 人口と人口問題

**a. 世界人口の成長** 人類が地球上に出現してから今日まで、100 万年ないし 300 万年もの年月が経過したと考えられている。しかし、そのほとんどの期間は人口増加率がゼロにひとしく、成長がはじまったのは紀元前8000年以後のことである。当時の世界人口はおよそ 800 万人と推定されるが<sup>1)</sup>、そのころ人類は狩猟採取経済を脱して農耕文化を形成しつつあり<sup>2)</sup>、これを契機にゆるやかな人口成長が開始されたのである。序-1表が示すように、その成長も産業革命以後の急増に比べればとるにたりないものであった<sup>3)</sup>。とくに最近四半世紀の激増はおどろくべきもので、しばしば人口爆発 population explosion と称せられる。

近年の人口増加が急激であることは、序-1図によって一層明らかに表現されよう。全体として直角双曲線のような形状を呈し、18世紀からはほとんど垂直の増加趨勢に転じている

のが印象的である。世界人口は現在40億をこえているといわれるが、今世紀末にはさらに60億を突破することが確実視されている<sup>4)</sup>。

もう1つ注意すべき点は、この人口増加が地域によって異なる趨勢をもっていることである。1750年には世界人口の約4分の1が先進地域に居住していたが、今世紀はじめにはほぼ35%までその割合を高めた。これは先進地域が人口転換過程<sup>5)</sup>にはいりこみ、死亡率を大きく低下させたことの結果であって、こ

序-1表 世界人口の成長  
(8000B. C. ~A. D. 2000)

| 年次         | 人口<br>(100万) | 年平均増加率<br>(%) |
|------------|--------------|---------------|
| 8000 B. C. | 8            |               |
| A. D. 1    | 250          | 0.04          |
| 1650       | 510          | 0.04          |
| 1700       | 641          | 0.46          |
| 1750       | 791          | 0.42          |
| 1800       | 978          | 0.43          |
| 1850       | 1,262        | 0.51          |
| 1900       | 1,650        | 0.54          |
| 1950       | 2,486        | 0.82          |
| 1975       | 3,967        | 1.89          |
| 2000       | 6,253        | 1.84          |

(出所) 本文の注1), 3) および4) を参照。

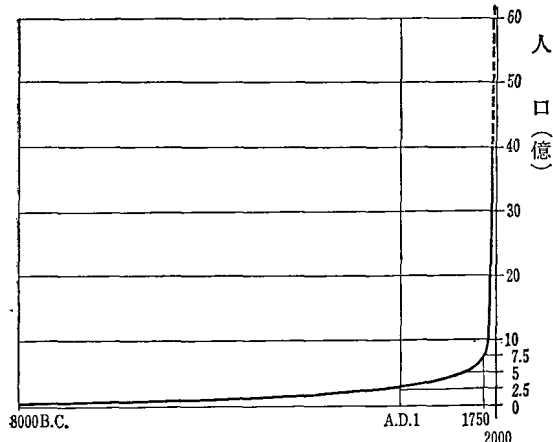
(注) 1650年以前は諸推計の平均。

1700年は Clark 推計。

1750~1900年は Durand 推計。

1950~2000年は国連推計。

序-1図 世界人口の長期趨勢  
(8000 B.C. ~ A.D. 2000)



序-2表 世界の地域別人口増加  
(1750~2000年)

| 年 次  | 世界人口<br>(100万人) | 先 進 地 域           |          | 低 開 発 地 域         |          |
|------|-----------------|-------------------|----------|-------------------|----------|
|      |                 | 人<br>口<br>(100万人) | 割<br>(%) | 人<br>口<br>(100万人) | 割<br>(%) |
| 1750 | 701             | 201               | 25.7     | 590               | 74.3     |
| 1800 | 978             | 248               | 25.6     | 730               | 74.4     |
| 1850 | 1,262           | 347               | 27.7     | 915               | 72.3     |
| 1900 | 1,650           | 573               | 34.7     | 1,077             | 65.3     |
| 1950 | 2,486           | 858               | 34.5     | 1,628             | 65.5     |
| 2000 | 6,253           | 1,361             | 21.8     | 4,893             | 78.2     |

(出所) 1750~1950年: United Nations, *The World Population Situation in 1970*, Population Studies, No. 49, New York, 1971, p.4, Tab. 1.

2000年: United Nations, *Selected World Demographic Indicators by Countries, 1950~2000*, ESA/P/WP. 55, 1975.

れを第1回の人口爆発ということもできる。

19世紀末葉から先進地域の多くの国々で出生率が低下し、この人口増加は次第に減速していった。代わって第二次大戦後、低開発地域の死亡率がにわかに急減して、人口増加率が鋭く上昇した。今日のいわゆる人口爆発はこの第2段ロケットの点火によってはじまったが、これは規模においてもスピードにおいても、19世紀の先進地域にみられたものをはるかにしのいでいる。現在低開発地域の人口は70%までシェアを拡大しているが、今後多少の減速がみられたとし

ても、その増加率格差は依然として大きく、今世紀末にはふたたび世界人口の4分の3かそれ以上を占めることになりそうである(序-2表参照)。

**b. 人口の概念と特質** 人口 population, la population, die Bevölkerung とは一定地域に居住する人間集団の量的表現であるが、外国語では動物人口、自動車人口、母集団などより広い意味で用いられる。この語はラテン語に由来しており、1335年にフランスで使用されていたという記録がある。16世紀の英

語では、はじめ“荒廃”を意味した。1578年には、to populate という動詞がひとを住ませる、植民するという他動的な意味で用いられた。当時はその用法が一般的であって、統計学の祖といわれるジュースミルヒ J. P. Süssmilch もその意味で用いた。人口ということばを現代的な意味で使用した最初のひとはフランシス・ベーコン Francis Bacon であったといわれるが、17、8世紀にはその用法が一般化している<sup>9)</sup>。

人口の本質はみずから再生産する能力をもつということにある。人口は出生によって増加し、死亡によって減少する。外部と隔絶された人口（封鎖人口）ならば、出生と死亡だけが人口の増加要因であるが、現実には他地域からの流入と他地域への流出も考慮しなければならない。また地域内でも、結婚や離婚、職業や産業、居住地や勤務地などの諸側面で人口はたえず流動しており、とどまるということがない。こうした人口の増加と構造変動の過程を単に人口過程 population process ということもある<sup>10)</sup>。

人口過程はそれ自体として独立的に進行しているようにみえるけれども、実際には外部の世界、とくに経済過程や社会過程と密接に結びついている。たとえば、わが国の38万平方キロにすぎない国土に現在の世界人口40億人が居住することは、現存の社会経済的条件の下では不可能であろう。つまり、人口過程はある国、ある社会におけるそのときどきの経済的条件によって規制されるのである。しかし一方、人口過程はさまざまなルートから外部過程に影響をおよぼしている。たとえば、ベビーブームの世代が学齢期に達すれば、校舎の増設や教員の確保が必要になり、都市に人口が集中すれば、住宅や交通機関への需要が増大する。

このように、人口は単に人間の数というにとどまらず、たえずその内容を変化させながら、外部過程から制約を受け、また外部過程に作用をおよぼす存在なのである。そして、これらのことが人口過程の基本的特質をなしている<sup>11)</sup>。

**c. 人口問題** 人口過程に何らかの不調整が発生して、それが矛盾として主観的に意識されたとき、これを人口問題という。それは人口過程の内部にも発生しうる。たとえば、男女の比率が極端にアンバランスで、人口の再生産力を低下させているような場合がそれである。しかしながら、ほとんどすべての場



合に、人口問題は人口過程と外部過程との不調整として現われる。しかもその場合、人口の側から問題をみる必要がある。たとえば、人口が多すぎて、それを扶養すべき食糧が不足するというとき、人口からみれば人口問題であるが、他面それは食糧問題でもある。むしろ人口問題と食糧問題は同義でなく、双方ともその一部であるにすぎない。すなわち、人口問題は相対的であると同時に、多面的な性格をもっている。それがしばしば食糧問題として発現することは事実であるが、ときに雇用・失業問題、資源問題、住宅問題、環境問題などの諸側面とも重要な接点をもっている。このことは、人口問題といわれるものが主に社会問題ないし経済問題であることを示唆している。

本節の冒頭でみたように、世界の人口は幾多の消長を経ており、人口問題の歴史もおそらくそれと同じ長さをもっているが、つねに同じ事柄が問題意識にのぼっていたわけではない。いわゆる過剰人口問題が大半の期間に中心をなしてきたことは疑いないけれども、反対に過少人口問題が叫ばれた時期もあれば、人口問題がほとんど意識されなかったこともまれではない<sup>9)</sup>。

人口問題には過剰、過少といった量的側面ばかりでなく、遺伝形質のような質的問題も含まれる。後天的資質、たとえば教育の問題はこの範疇に入れることもできようが、年齢や配偶関係など構造の問題を人口質として扱うべきかどうかは意見の分れるところであろう。ともあれ、歴史的には質的人口問題が関心を引いたことは比較的になかったといってよいし、本書でもわれわれの主たる関心はやはり量的問題に向けられるであろう。

## 第2節 人口学の体系と構成

**a. 学際科学としての人口学** 問題の発生は研究を刺激する。原因をたずね、対策をたて、あるいは原因を取り除こうとする試みが研究の発端である。したがって、人口研究の歴史も記録をたどれば古代ギリシャの昔にさかのぼりうるが、人口研究を1つの独立の学たる“人口学”として体系化しようとする努力はごく近年にはじまったばかりである。そもそも人口学に対応するデモグラフィー demography という語は19世紀半ばにフランスのギヤール A. Guillard